

平成18年度



大田原市

昨年10月、合併により新生大田原市が誕生しました。旧3市町村で実施されてきた、きめ細やかな諸施策を引き続き押し進めるとともに、平成18年度は、新市の将来像である「住む人が輝き、来る人がやすらぐ、幸せ度の高いまち」の実現に向けた新たなまちづくりのための事業を積極的に予算計上しました。

「大田原市の家計簿」では、この平成18年度の予算をもとに、皆さんに納めていただく税金や国・県からの支出金が、どのように使われるのか、どのような仕事にどのくらいお金が必要なのか、また、市の借入金（市債）や預金（基金）はどのくらいあるのかなどを中心に、新生大田原市としての財政状況をお知らせするものです。

【目 次】

1	平成18年度の市の予算	1
2	平成18年度の一般会計予算	2
3	市民1人当たりの予算	4
4	平成18年度予算にみる1人当たりの経費	5
5	平成18年度の主な事業の予算	6
6	基金の状況	7
7	市債の状況	8
8	市債の残高	9
9	公債費の状況	10

1 平成18年度の市の予算

(1) 一般会計 285億2,000万円

※ 皆さんからの税金を主な収入として市の大部分の仕事をまかっています。

(2) 特別会計 192億2,400万円

国民健康保険事業費 69億8,000万円

下水道事業 20億3,600万円

老人保健 59億200万円

農業集落排水事業 1億7,700万円

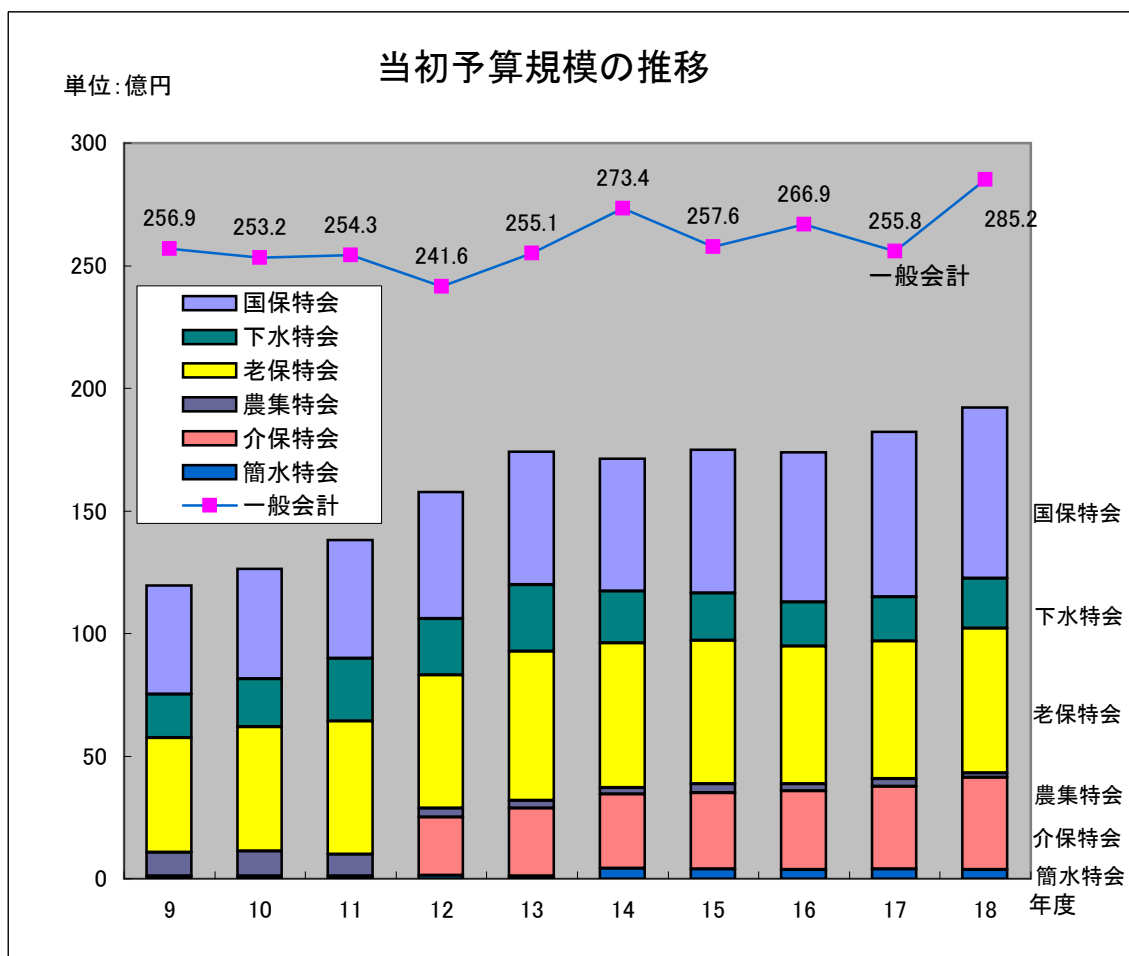
介護保険 37億5,400万円

簡易水道事業 3億7,500万円

※ 特定の収入で特定の事業をまかっています。

(3) 水道事業会計 23億4,760万円

※ 企業会計で経理されている会計です。



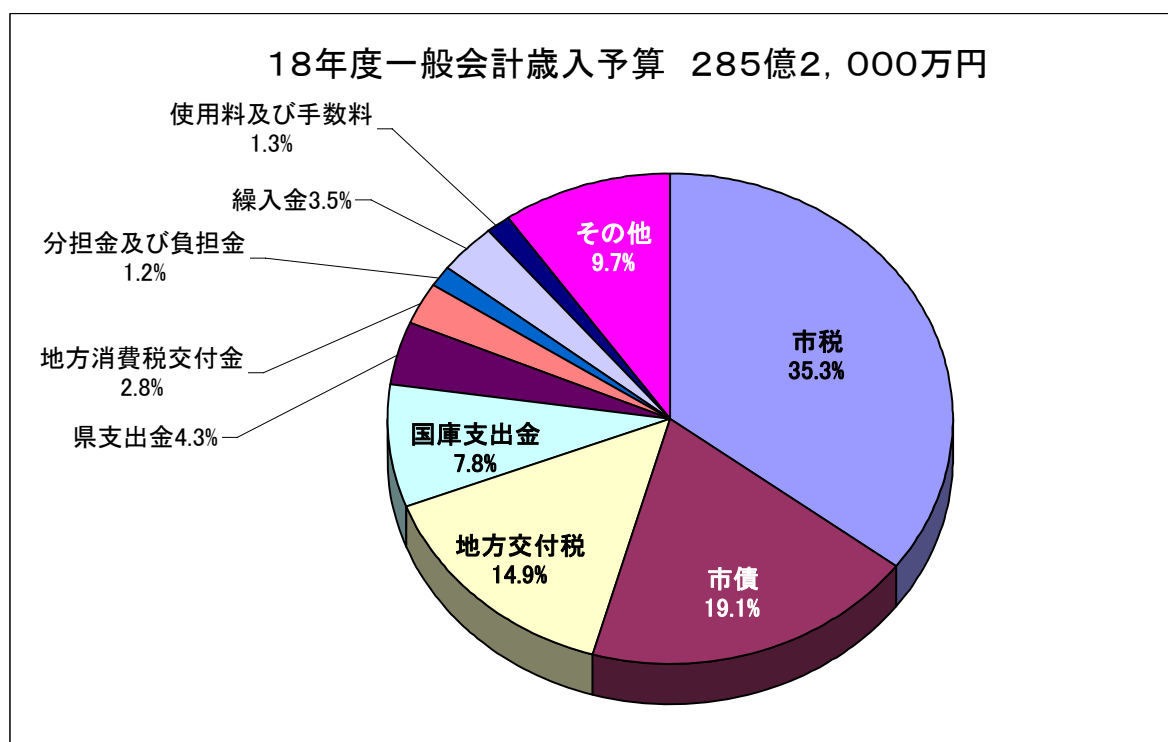
※ グラフ中平成9年度から17年度までは、3市町村の当初予算を合算しています。
 ※ 須賀川財産区予算は含まれておりません。

2 平成18年度の一般会計予算

一般会計には、市民の皆さんの日常生活に深くかかわっている福祉、衛生、道路、教育などの仕事を行うための経費が計上されています。
平成18年度の予算は、285億2,000万円で、その内訳は以下のとおりです。

【歳入】

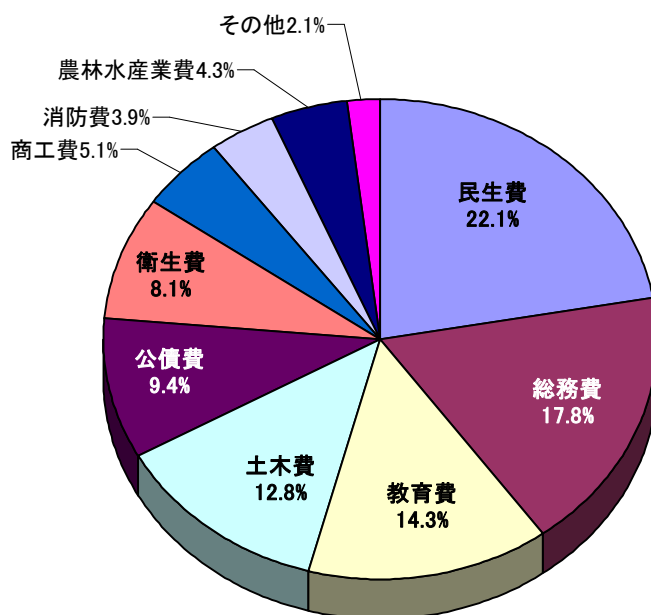
市 税	100億6,603万円	皆さんに納めていただく市民税(個人及び法人分)や固定資産税、都市計画税などの税金です。
市 債	54億3,340万円	多額の資金を必要とする事業に対して、国や銀行等から借り入れるお金です。
(うち合併特例債)	(34億5,640万円)	合併市町村に配分される有利な借入金です。
地方交付税	42億5,000万円	全国の市町村がひとしく事務ができるように、国税(所得税、法人税、酒税、消費税、国のたばこ税)の一定割合が、市町村の財政状況に応じ交付されます。
国庫支出金	22億3,601万円	道路の整備や学校の建設、社会福祉などの特定の事業に対して、国から支出されるお金です。
県支出金	12億3,698万円	特定の事業に対し県から支出されるお金です。
地方消費税交付金	8億円	地方消費税1%の1/2が市町村に交付されます。
分担金及び負担金	3億5,166万円	他市町村からの負担金や、保育園児の保護者に負担していただくお金です。
繰入金	10億42万円	基金(預金)から一般会計に繰り入れるお金です。
使用料及び手数料	3億8,198万円	市営住宅などの使用料や住民票の交付手数料などです。
その他	27億6,350万円	繰越金や財産収入、寄附金などのお金です。



【歳出】

民生費	63億1,603万円	高齢者や幼児、体の弱い人などを援護する福祉向上のための経費です。
総務費	50億7,799万円	市役所の全般的な仕事や税金の賦課徴収、戸籍事務、選挙事務などの経費です。
教育費	40億8,322万円	小・中学校の教育を充実したり、文化・芸術、スポーツを盛んにするための経費です。
土木費	36億5,209万円	道路や橋、河川、公園を整備したり、区画整理を行うための経費です。
公債費	26億8,749万円	学校や道路、市営住宅などを建設するために借りたお金を返済するための経費です。
衛生費	23億1,114万円	皆さんの健康を守ったり、ごみやし尿を処理するための経費です。
商工費	14億5,956万円	商業や工業、観光などを盛んにするための経費です。
消防費	11億1,519万円	皆さんの生命や身体、財産を火災などの災害から守るための経費です。
農林水産業費	12億3,206万円	農業や畜産業、林業などを盛んにするための経費です。
その他	5億8,519万円	議会費や労働費、災害復旧費などの経費です。

18年度一般会計歳出予算 285億2,000万円



3 市民1人当たりの予算

一般会計の予算の総額285億2,000万円を平成18年4月1日現在における住民基本台帳人口75,347人で除して、市民1人当たりの予算に換算すると37万8,515円になります。その使いみちの内訳は以下のとおりです。

【歳入】

市税 100億6,603万円 (1人当たり 13万3,595円)
 市税以外のお金 184億5,397万円 (1人当たり 24万4,920円)

【歳出】

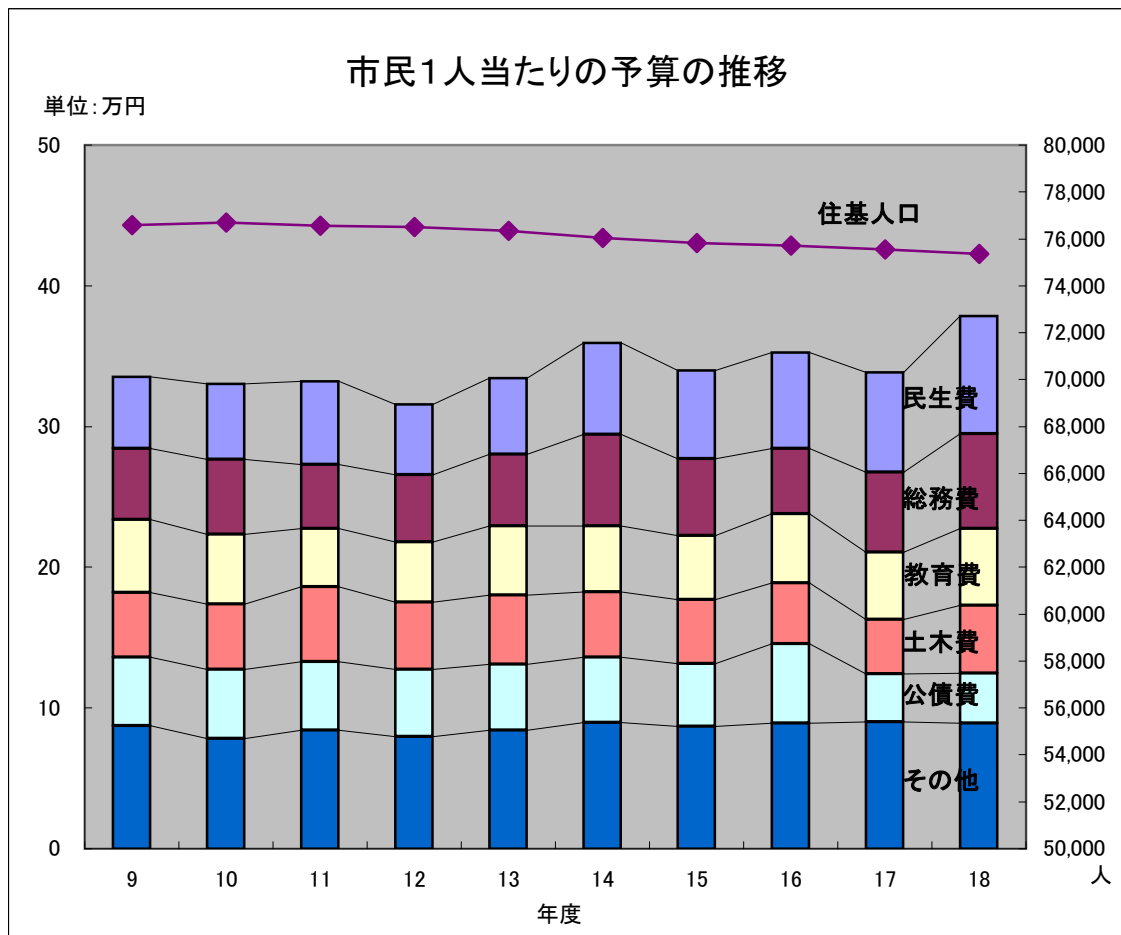
民生費 8万3,826円
 総務費 6万7,395円
 教育費 5万4,192円
 土木費 4万8,470円
 公債費 3万5,668円
 衛生費 3万 673円
 商工費 1万9,371円
 消防費 1万4,801円
 農林水産業費 1万6,352円
 その他 7,767円

1人当たりに使われるお金

37万8,515円

(参考)

1人当たりの個人住民税 3万4,271円
 1世帯当たりの市税 40万3,480円
 1世帯に使われるお金 114万3,178円



4 平成18年度予算にみる1人当たりの経費

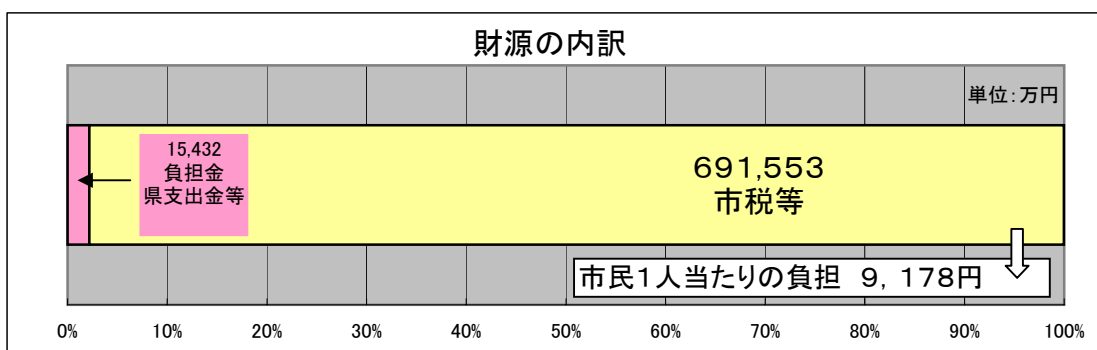
一般会計の予算のうちで、高齢者、保育園児及びごみ処理に要する1人当たりの経費については、以下のとおりです。

(1) 高齢者1人当たりの経費

4万5,547円

老人福祉費 7億 699万円

65歳以上の人口 15,522人
(平成18年4月1日現在)



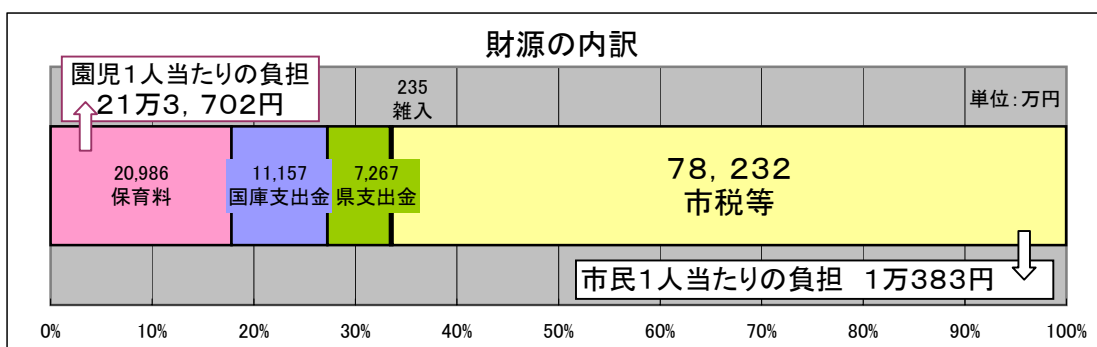
※ 介護保険に係る経費は含まれていません。

(2) 保育園児1人当たりの経費

120万755円

保育所費 11億7,914万円
(私立保育所運営費を含む)

園児数 982人
(平成18年4月1日現在)



※ 平成18年度しんとみ・すみよし保育園統合整備事業費3億円を除いています。

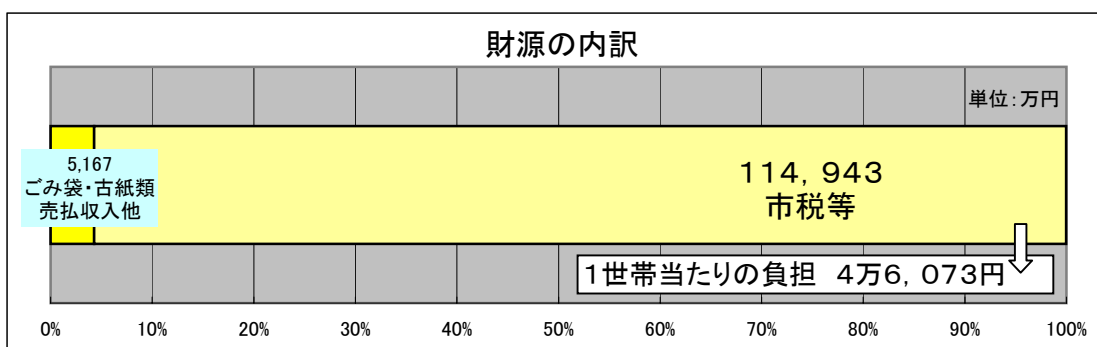
※ 須賀川児童館に係る経費は除いています。

(3) ごみ処理に要する1世帯当たりの経費

4万8,144円

ごみ処理費 12億110万円

世帯数 2万4,948世帯
(平成18年4月1日現在)

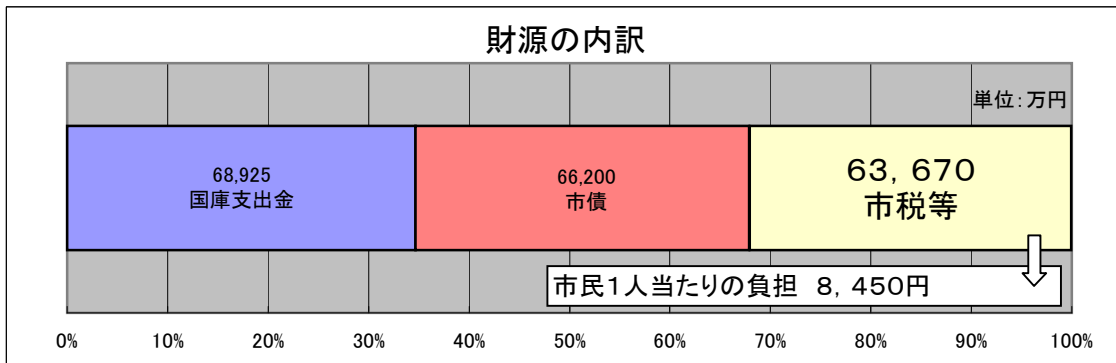


※ 平成15年度から、ごみ処理は広域クリーンセンター大田原で処理されています。

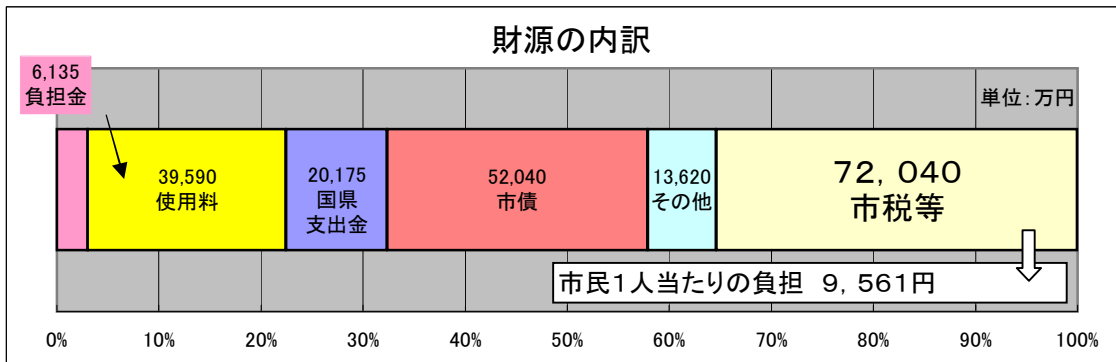
5 平成18年度の主な事業の予算

大田原市の予算のうちで、道路、下水道及び簡易水道の各事業について、市税等の収入を市民1人当たりいくら見込んでいるかは、以下のとおりです。

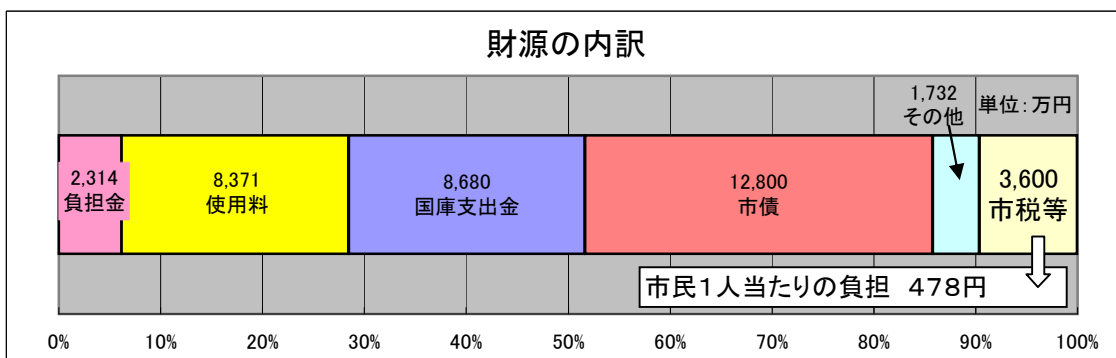
(1)道路	道路関係予算額	19億8,795万円
	(内訳)	
	道路維持	2億9,447万円
	新設改良	11億8,118万円
	街路	5億1,230万円



(2)下水道	下水道事業特別会計予算額	20億3,600万円
--------	--------------	------------



(3)簡易水道	簡易水道事業特別会計予算額	3億7,500万円
---------	---------------	-----------



6 基金の状況

基金とは、ある目的のために銀行などに預金しておいたり、土地として持つことにより、必要なときに預金をおろしたり土地を処分（売り払い）したりすることによって、皆さんのために仕事をするものです。

平成18年3月31日現在で15の基金があり、その内容は以下のとおりです。

財政調整基金	22億1,579万円	年度間のお金の調整を行い、健全な財政運営を行なうための預金
減債基金	2億820万円	市で借りたお金の返済を計画的に行うための預金
土地開発基金	現金 4億5,563万円 貸付金 4億3,682万円 土地 50,589㎡	施設などを建設するための土地をあらかじめ購入することで、その事業を進めやすくするための預金等
奨学基金	8,159万円	高校生や大学生に対して奨学金の貸し付けをするための預金
あすなる基金	1億 202万円	小学生や中学生の表彰と青少年の国内外の交流に関する事業を円滑に行なうための預金
大学誘致基金	1,288万円	大学などの高等教育機関の誘致を進めるための預金
スクラム基金	6億4,660万円	高齢者などの生活を援助するための預金
スポーツ文化振興基金	6,257万円	皆さんのスポーツや芸術・文化を振興するための預金
子育て支援基金	862万円	明日を担う子どもを、安心して生み、健やかに育てるための預金
中山間地域農村環境保全基金	1,021万円	中山間地域の農村環境を形成する土地改良施設等の保全事業を実施するための預金
国民健康保険財政調整基金	3億8,230万円	国民健康保険事業を適正に行なうための預金
高額療養費資金貸付基金	300万円	一時期に多くの医療費を必要とする人に対して貸し付けをするための預金等
国民健康保険出産費資金貸付基金	246万円	出産一時金の支給を受けるまでの間、出産に要する費用を貸し付けるための預金
介護保険財政調整基金	7,231万円	介護保険事業を健全に維持するための預金
高額介護サービス費貸付基金	100万円	多くの介護保険サービス費を必要とする人に対して貸付をするための預金

※出納整理期間中(H17.4/1～5/31)に積み立てる予定のものを含んでいます。

7 市債の状況

市は、皆さんが納める税金を主な収入として、いろいろな仕事をしています。その中で、学校や道路などは、皆さんの子供の代まで利用できるものであり、その建設や工事にかかるお金も、それらを利用する住民の方にも負担していただくという考えで、一部に長期の借入れをしています。

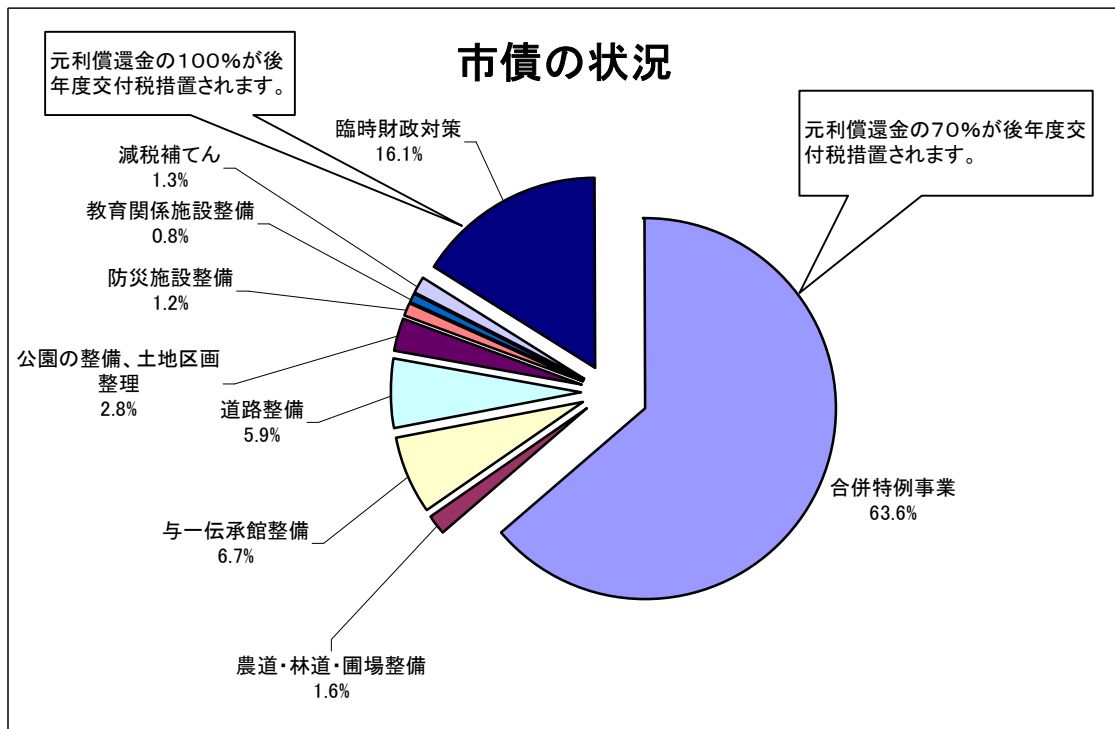
この借入金を市債といいます。平成18年度は一般会計で54億3,340万円で、うち34億5,640万円が合併特例事業債という合併市町村に有利なものを予定しています。平成18年度の借入金を市民1人当たりで換算すると7万2,112円です。

合併特例事業のために

34億5,640万円

市営バス購入事業//市道486号線他14路線の道路改良事業
しんとみ・すみよし統合保育園新築事業//西原小学校管理特別教室棟新築事業
金丸小学校給食室新築事業//黒羽統合中学校校舎建築事業
黒羽・川西コミュニティセンター建設事業//美原公園陸上競技場整備事業
合併振興基金設置事業

農道・林道・圃場整備のために	8,810万円
与一伝承館整備のために	3億6,340万円
道路整備のために(合併特例事業を除く)	3億1,910万円
公園の整備・土地区画整理のために	1億4,950万円
防災施設の整備のために	6,580万円
教育施設整備のために(合併特例事業を除く)	4,370万円
減税補てんのために(注1)	7,240万円
臨時財政対策のために(注2)	8億7,500万円
計	54億3,340万円

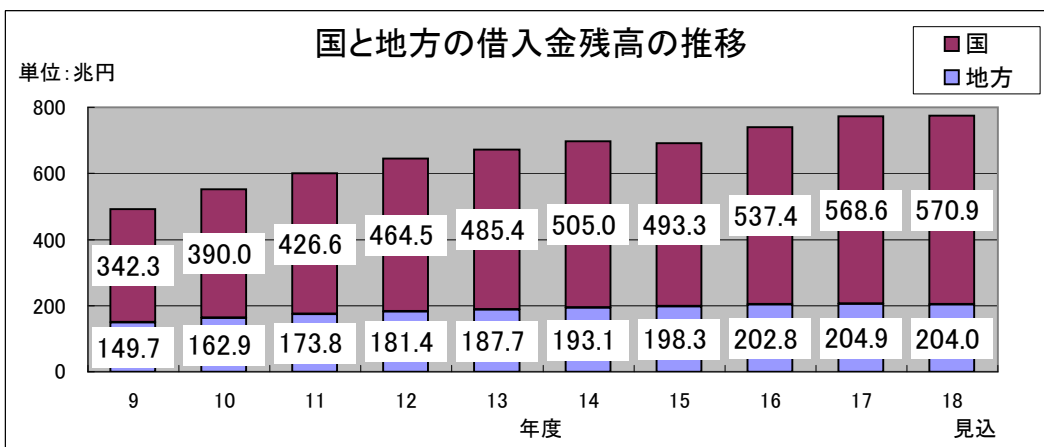
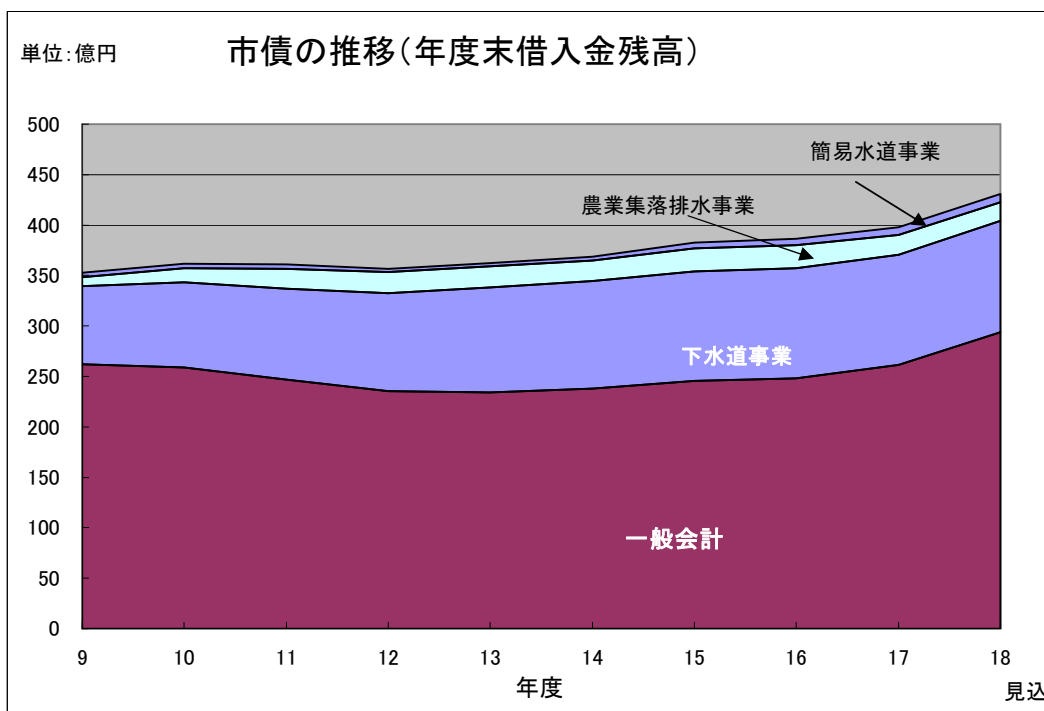
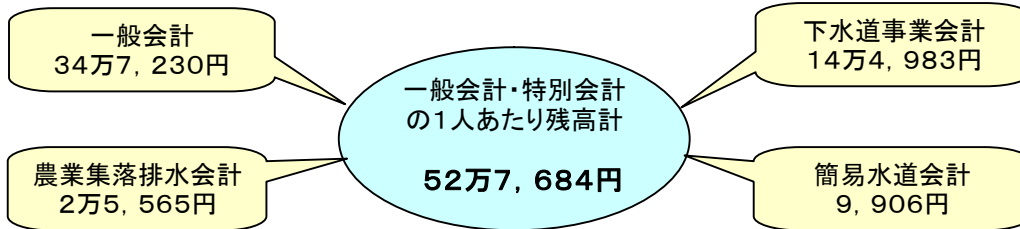


- (注1) 恒久的な減税の影響額を、それぞれの自治体が借入れ補てんする制度。後年度普通交付税で措置される。
(注2) 国税収入の減少による普通交付税の振替額を、それぞれの自治体が借入れ補てんする制度。後年度普通交付税で措置される。

8 市債の残高

平成17年度末の一般会計における地方債の現在高は261億6,274万円となる見込みであり、市民1人あたりに換算した額は34万7,230円です。

一般会計、特別会計の1人あたりの地方債残高見込(水道事業会計除く)



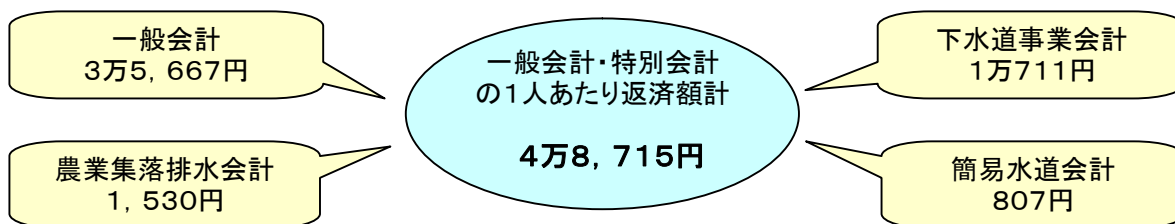
※ 地方の残高は地方債残高、企業債残高のうち普通会計負担分及び交付税特会借入金残高のうち地方負担分の合計額です。平成16年度までは決算、それ以降は予算(補正含む)の数値です。

9 公債費の状況

市債は、その年度では収入ですが、将来に渡り元金に利息をつけて返済していかなければなりません。この市債（借入金）の返済金を公債費といいます。

平成18年度の一般会計公債費は、26億8,742万円で、市民1人当たり換算した返済額は3万5,667円です。

一般会計、特別会計の1人あたりの返済額（水道事業会計除く）

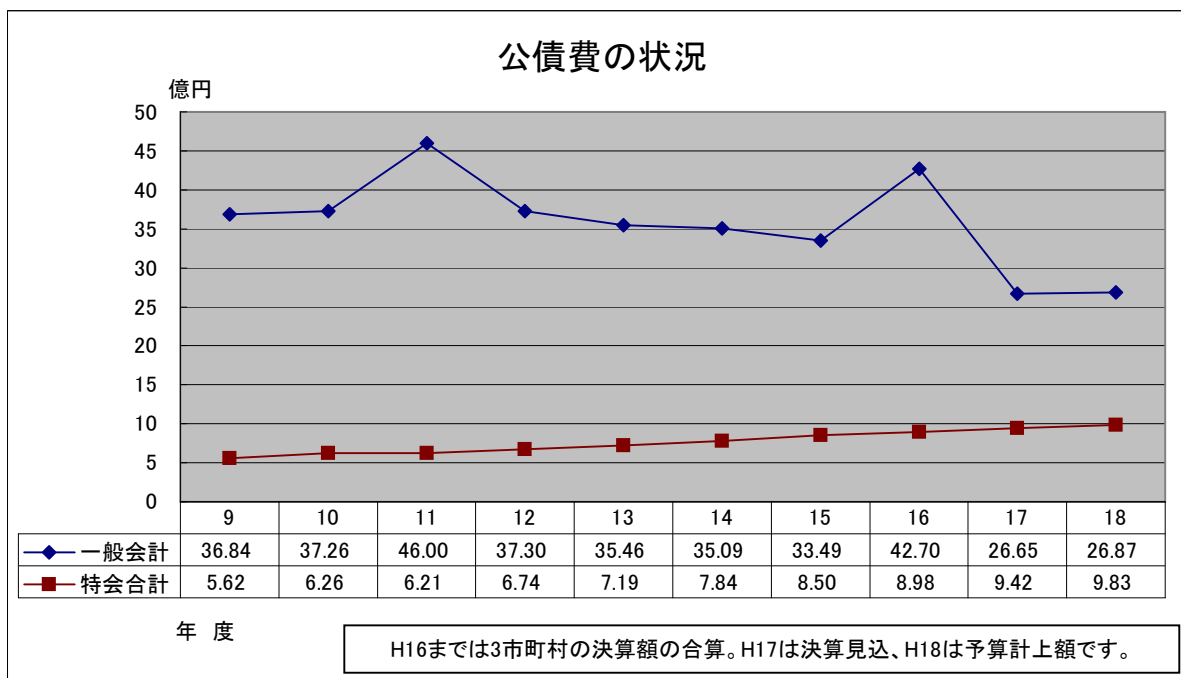


大型事業の返済額を計算してみると・・・

・道の駅那須与一の郷（平成12年度～15年度）

借入金の総額 5億6,000万円
返済額の総額 5億9,986万円

平成18年度の返済額4,914万円で市民1人当たり652円となります。



※ 平成11年度と16年度は一時的に公債費が増大していますが、それぞれ繰上償還や減税補てん債の借替えを実施したことにより、大幅な利子の軽減となりました。



お問い合わせ先

大田原市財務部財政課財政係

TEL 0287-23-8797

E-mail zaisei@city.ohtawara.tochigi.jp